㈳全高Ｐ連会報

社団法人全国高等学校PTA連合会（連絡先）〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1（奥田ビル）TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757
発行人 相川順子　URL http://www.zenkoupren.org/　e メール info@zenkoupren.org

平成二十三年度会長に相川順子氏が就任

6月25日、平成二十三年度総会が開催され、髙間専逸会長の勇退のあとを受けて、新会長に青森県高Ｐ連会長の相川順子氏が新会長に就任した。

会長就任の挨拶

社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会　会長
相川順子

この度の全国高等学校ＰＴＡ連合会総会において、第十六代会長に就任する事になりましたので、よろしくお願い致します。

全国高Ｐ連は昭和二十七年に全国高等学校ＰＴＡ協議会として発足し、子どもたちのために「会員の気持ちをひとつに」を原点に、これまでも様々な事業を行ってまいりました。全国高Ｐ連の役目として、皆様の声を、文部科学省をはじめ各関係機関に直接伝える事を通して、教育環境の改善や健全育成の課題に取り組んできました。このことはＰＴＡ活動の原点でもあり、今後も引き続き行ってまいります。

さて、今年度は、隔年で実施してきた進路意識に関する調査の年にあたり、第五回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」を実施致します。この調査を通して、高校生と保護者の進路に関しての望ましい在り方や、将来の課題について探ってまいります。

また、六年前から実施してきた「高校生の生活・意識調査」を、今年度は「高校生の育成環境改善のための継続的実態調査」として、実施する事になりました。高校生の人間関係や親子関係、信頼関係を中心とした調査と分析を行います。

これらの活動の他に、社会状況の変化に伴い一般社団法人への移行に向けた作業も引き続き行わなければなりません。

また、（仮）会費等検討委員会を立ち上げ、組織運営の在り方について見直し、事業内容の精査などをする事が急務となっております。私たちは、保護者として、また大人として、実社会へ出て自立できる子どもを育てる役目を果たさなければなりません。そのためにも、全国高Ｐ連としては、皆様へ研修や研鑽の場を提供し、情報を発信してまいります。私たち自らが学び保護者力をつけていくことが子どもたちへの人間力、生きる力となっていくのではないかと思います。

ＰＴＡ活動は、人との出会いにより、信頼関係を築き、様々な事を作り上げ、活動を続け次へつなげていく役割を担っていると思います。３月11日の東日本大震災により、今でも多くの方々が避難生活を余儀なくされています。復興には長い年月がかかります。今こそ、全国の絆を強く結び、未来ある子どもたちのために、お互いが知恵を出し合い、共に同じ方向に向かって進んで行くことが大切ではないでしょうか。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

左から工藤重信副会長、相川順子会長、三浦啓亨副会長

今号の主な内容

会長就任あいさつ　1頁
シリーズ青春白書　全国からの便り－輝く姿がここにある－
滋賀県立虎姫高等学校　2頁
「質実剛健」「方円自在」「独立自尊」
進学校としての一流をめざす
山梨県立甲府第一高等学校　3頁
校是「Boys,be ambitious」
志をかかげ、未来をみつめる若者たち
―豊かな教養と優れたコミュニケーション能力を持ち、広く活躍する有為な人材の育成をめざして
平成23年度総会報告　4頁
各委員会報告　5頁
シリーズ視点『ケータイ甲子園2010』全国大会の開催報告　6～7頁
地区大会報告
北海道地区・関東地区　8頁
東京地区・北信越地区　9頁
東海地区・近畿地区　10頁
中四国地区・九州地区　11頁
平成23年度役員・委員名簿　12頁
義援金のお礼と報告　12頁

滋賀県立虎姫高等学校
「質実剛健」「方円自在」「独立自尊」
進学校としての一流をめざす

【虎姫ってどこ？】

現在ＮＨＫ大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の舞台となっている浅井氏居城の小谷城は、本校から数キロ北東にあります。また、織田・徳川連合軍が浅井・朝倉同盟軍と戦った「姉川の合戦」の古戦場の近くにあります。

【校名の由来】

昔、本校の近くに桃酢谷という場所があり、美しい姫が一人で暮らしていました。名前を虎御前といいました。虎御前の美しさは評判になり、結婚の申し込みが後を絶ちませんでした。ある日虎御前は中野に住む世々開という若者に出会い、縁あって共に暮らすことになりました。ほどなく、

虎御前姫の伝説

ところが生まれてきたのは、顔以外はうろこに覆われた十五匹もの小蛇でした。虎御前は嘆き悲しみ身を投げてしまいましたが、世々開は子どもたちを立派に育て、子どもたちが成人する頃には、人間とまったく変わらない容姿となりました。明治二十二年に町村制が実施されたとき、虎御前を偲んで「虎姫村」と名付けられました。

【学校概要】

本校は、大正九年に、虎姫村に滋賀県立虎姫中学校として設立され、昨年度、九〇周年を迎えました。これまで卒業生は一万九千人を超え、国内外、また、各界で活躍されています。本校の校訓は「質実剛健」で、飾り気なく誠実で、たくましく健やかであれという教えは、創立以来本校のあらゆる教育活動に脈々と受け継がれています。さらに、校歌にある「独立自尊」と「方円自在」の考え方は校訓とともに本校教育の大切な柱となっており、自主・自立の精神と柔軟な思考力および心を持った人材育成に努めています。

本校前庭より

本年度は、県教育委員会から、「確かな自己実現支援事業」の指定を受け、特色ある教育活動を展開し、進学校としての一流をめざしています。

【特色ある教育活動】

①高大連携講座　滋賀県立大学（生物・化学・物理分野）、滋賀医科大学（医学科・看護科）、金沢大学（全文系学科）と連携を組み、夏季休業中の二日間、主に二年生が参加します。実際に大学で行われている講義や実験を体験します。

②コアＳＳＨ　県立膳所高校の連携校として県内数校合同で実施する事業で、科学に関する課題研究を行い、それを英語で発表します。また、三月には、イギリス研修に参加し、ケンブリッジ大学、大英博物館等を訪れます。

③電子黒板の導入　昨年創立九十周年を迎え、卒業生等よりご寄付をいただき、ＨＲ教室等に87インチの大画面を持つ電子黒板を設置しました。これにより、インターネット、パワーポイント、ＤＶＤ視聴、画面への書き込み・保存もでき、授業が画期的に効率化されました。今秋、外国の高校とのテレビ会議も行う予定です。

電子黒板による授業

【虎高あれこれ】

本校敷地内には、姉川（姉川の合戦で有名）の伏流水が豊富で、多くの湧き水があり、生徒たちがよく利用します。それを虎高三名水と称し、それぞれ「賢くなる水」、「強くなる水」そして「考える泉」と名付けています。

中庭「賢くなる水」

【ＰＴＡ活動】

学校の日々の教育活動、生徒・教職員を支援しながら、次のような活動を継続して行っています。

①ＰＴＡ総会・進路講演会　二百人を越える保護者が参加し、総会の後、学校紹介、希望進路に向けての取り組み、学年の状況などが報告されています。

②研修旅行　毎年八十人を越えるＰＴＡの参加があり、大阪・京都・名古屋方面の大学見学・模擬授業や名所見学等を行っています。

③ＰＴＡ通信　学校の取り組み、部活動の活躍、ＰＴＡ活動の報告など、年二回発行しています。

④ようこそ先輩　一年生の二学期の当初に本校卒業生で社会において活躍している先輩三名をお迎えし、パネルディスカッション形式で自分の進路や生き方についてお話をいただくものです。招聘する先輩の人選や当日の進行をＰＴＡ会長・副会長にお願いしています。

平成22年度「ようこそ先輩」

⑤ＣＯＭ委員会　ＣＯＭＭＵＮＩＣＡＴＩＯＮ（伝達・通信）の略ですが、今年から発足しました。授業参観や懇談会を予定しています。

⑥巡回指導　生徒の健全育成の一環として夏休みに三回、量販店等の巡視を行っています。

⑦その他　文化祭の模擬店や二年生の学年行事「32キロメートル剛健ウォーク」で安全指導やうどんの提供を行いました。

「青春白書全国か
―輝く姿がこ

未来を見つめ、夢を追い求め、
その子どもたちを熱意
そしてＰＴ

山梨県立甲府第一高等学校

校是「Boys,be　ambitious」
志をかかげ、未来をみつめる若者たち

―豊かな教養と優れたコミュニケーション能力を持ち、広く活躍する有為な人材の育成をめざして

【学校の概況】

本校は明治十三年に山梨県中学校として開校し、何度かの改称を経て、現在の校名となり、今日まで一三一年の歴史を有しています。卒業生も三万人を超え、首相石橋湛山をはじめ各界で活躍する有為な人材を輩出してきました。伝統は新たに作ることで繋がっていくとの認識のもと、各学年普通科六クラスと英語科一クラスの生徒が勉学に部活動に励んでいます。

【特色ある教育活動とそれを支えるＰＴＡ】

本校の特色ある学校行事「強行遠足」は、大正十三年に江口俊博校長によって創設され、今年で八十五回を迎えます。毎年十月上旬に二日間をかけて、男子は夜十時に学校を出発し長野県の小海まで七六キロメートルを、女子は朝七時三十分に県内の須玉から長野県の野辺山まで三〇キロメートルを各自の体力に応じて歩きます。

この行事は、生徒にとっては、まだ知らぬ自分の限界への挑戦です。歩くことで自己を見つめ、己の内面を知り、可能性を知るという精神的な行事でもあり、自己を確立することにもつながっています。友人との友情を深め、多くの方に支えられていることを実感する場でもあります。

この経験は深く心に残り、同窓生をつなぐ絆にもなっています。また、同じような行事を行っている北海道の北見北斗高等学校と交流し、生徒が交互に参加し合い親睦を深めています。

在校生の強行遠足に対する意気込みは相当なもので、体育の授業をとおして細かな各地点での目標タイムを作り、毎日の生活の中で自己管理をしながら備えています。

夜間を含む長時間・長距離にわたる行事を支えているのは、ＰＴＡです。昨年度は五〇〇人以上の保護者が、交通整理、交通案内、給水所・検印所の任務、バスの乗車指導、医療関係などの仕事を行いました。物資不足の戦中戦後も途切れることの無かった名物のしじみ汁も大勢で作って生徒に提供し、寒い中、体を温める忘れられない味として喜ばれています。

ＰＴＡの協力がないと実施できない行事ですが、深夜に及ぶ長時間の仕事にもかかわらず、子どもたちのひたすら頑張るすがすがしい姿に接し、応援することを通して、参加してよかったとの感想が多く寄せられています。子どもを知り、親子で共に体験できる貴重な機会ともなっています。

【ＰＴＡの組織と他の活動】

本校のＰＴＡ役員は各クラス五名の一〇五名で組織されています。その中で強行遠足委員会と広報委員会が設置されています。前述の通り強行遠足委員会は強行遠足の中心となって活動しています。

広報委員会は年二回のＰＴＡ便りの発行と学校説明会（延参加中学生・保護者二，〇〇〇名）オープンスクール（のべ参加者一，一〇〇名）の受付・誘導案内・保護者相談コーナーの対応などをしています。

その他に各学年の保護者対象進路説明会なども行われ、ＰＴＡの理解と協力のもと生徒たちは生き生きとした学校生活を送っています。

平成二十三年度
社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会第一回通常総会報告

６月25日、東京お茶の水にある東京ガーデンパレスにおいて本年度第一回総会が開催された。

来賓は文部科学省生涯学習政策局社会教育課長塩見みづ枝氏、日本ＰＴＡ全国協議会会長相川敬氏、日本私立小学校中学校高等学校保護者連合会副会長門傳英慈氏。

総会に先立ち、東日本大震災で亡くなられた高校生や保護者をはじめ多くの方々に対して黙祷を捧げた。次いで被災された太平洋沿岸の東北・北関東の県高等学校ＰＴＡ連合会長に高間専逸全高Ｐ連会長から義援金が目録と共に手渡された。

これに対し、被災された高等学校ＰＴＡと生徒に代わって宮城県高Ｐ連の正木毅会長が、義援金を寄せられた全国の方々に対してお礼の言葉を述べた。

また、今回渡された義援金は第一次分で、第二次の分配を行うことを予定している。（12ページに関連記事）

文部科学省あいさつ

総会では、高間専逸会長、来賓の挨拶があり、議長に大分県高Ｐ連会長三浦啓亨氏を選び、議事に入った。

一号議案・22年度事業報告、二号議案・22年度収支計算書・同監査報告とも、本部事務局・各委員長・代表監事による報告があり、両議案は満場一致で可決された。しかし、監査報告の『意見』では、「収支改善を見据え、組織運営並びに財政の構造的な見直しを早急にはかられたい」、「補助金に頼らない自主事業への取り組みを諮られたい」と昨年に引き続いて同様の指摘があったことから、全国高Ｐ連執行部としては今後早急に対応が迫られることになった。

第二号議案・東京大会決算報告、第四号議案・平成23年度役員選任は提案どおり可決されて休憩に入った。

再会後の、第五号議案・会長、副会長、専務理事、常務理事の選任では高間専逸会長が勇退されたのを受けて、青森県高Ｐ連会長の相川順子氏が第十六代会長に選任された。

また、大分県の三浦啓亨理事と岩手県の工藤重信理事が副会長に、北海道の松本衆司理事が専務理事、山口県の多々良健司理事が常務理事として可決了承された。（1ページに関連記事）

第六号議案・一般社団法人への移行については、相川新会長から提出された①定款変更案の停止条件付（新法人として登記がすむまで発効しないことを条件とする）決議②役員変更案の停止条件付決議③一般社団法人への移行認可申請に関する件、以上３議案が全て満場一致で可決承認され、閉会となった。

福島県高Ｐ連会長に目録が手渡された

今総会では、放射線医学総合研究所放射線防護研究センターより放射能及び放射線に関する説明と、文化庁芸術文化課より、福島県で開催される高等学校総合文化祭について、開催地に関する風評被害などもあることから参加の要請があった。

日本の高校生を元気にする
高校生新聞® 高校生スポーツ®

■1993年10月創刊 ■タブロイド判 平均28頁 ■毎月10日発行

「高校生新聞」は、高校生の活躍、分かりやすいニュース解説、生活アドバイス、勉強上達法などが満載。「高校生スポーツ」は、高校の運動部、各種大会を徹底取材し、スポーツする高校生に役立つアドバイスコラムも充実。高校生はもちろん、先生方、保護者、中学生も必読です。

高校生のための夢探し、自分探し 夢現塾
＆校内ステップアップ進学相談会
各界で活躍する講師の講演と、生徒が希望する大学・短大・専門学校の入試相談会を校内で無料開催。

首都圏で418の高校が利用
大学情報ステーション

学校をサポートする総合教育事業を展開!!
株式会社スクールパートナーズグループ
高校生新聞社
〒194-0022 東京都町田市森野1-34-10 TEL.042-724-2750
FAX.042-724-2710　http://www.koukousei-sinbun.co.jp

各委員会報告

健全育成委員会

委員長　岡薗　正浩

第一回健全育成委員会において、前年度引継ぎ事項及び、平成23年度に取り組むテーマについて、協議確認を行いました。

第一の事業として、『高校生の実態調査について』今年度は、日本財団の補助を受けアンケート調査を引き続き実施する。対象者として「高校２年生、７５００人」の生（なま）の声を情報収集し、紙ベースでの報告書作成は行わず、ＰＤＦや、ＨＰでの発信を、調査広報委員会と連携して行っていくこと、そして、単年度でなく長期的ビジョンでの取組みとして検討することを確認した。昨年度実施した、シンポジュウムは今年度は開催しない。

第二の事業として「日本宝くじ協会補助事業」、『薬物乱用パンフレット』の作成について、協議確認を行いました。パンフレット作成については、内容の検討とインパクトのある表紙へ改善するよう、協力者委員会へ提案することとした。

委員会の充実を諮る為、メールにて意見の収集（メール委員会）を行います。日本中の高校生が元気で、明るく、楽しく高校生活が送れるために何ができるか、当委員会メンバーも全力で今年度事業に取り組みます。

『がんばろう、日本』

進路対策委員会

委員長　正木　毅

平成23年度の進路対策委員会事業としては、「就職促進に関する関係機関への働きかけ」と「高校生と保護者の進路に関する意識調査」を計画しております。

「就職促進に関する関係機関への働きかけ」としては、新規高卒予定者の雇用促進のために厚生労働省と文部科学省の各大臣あてに要請文を渡し、円滑に希望する職業に就いていただけるよう環境整備を図るものです。リーマンショックの影響が徐々に回復してきた中で東日本大震災による産業基盤の崩壊などで新卒高校生の就職は非常に厳しい状況となっております。経営者の方々に対する特段の配慮を関係機関から強力に要請していただくものです。

また、「高校生と保護者の進路に関する意識調査」については、平成15年から2年に1回の頻度で実施してきたものです。親子のコミュニケーションや勤労に対する考え方、自立意識などについて有意義な内容となるよう努めてまいりたいと考えております。

今年9月から10月中旬に全国各ブロックから27校の2年生に協力をいただき、その後分析を行い、来年2月頃までに報告書を作成する予定です。結果につきましては、ＨＰに掲載するとともに、冊子としても各校に配布する予定ですので、保護者におかれては子供との進路検討に、教職員におかれては進路指導に大いに参考にしていただきたいと考えております。

調査広報委員会

委員長　青木真佐枝

今年度、調査広報委員会の活動といたしまして、会報紙を例年通り三号発行する予定です。思わず手に取り、ページを繰りたくなるような紙面構成でインパクトのある会報紙にしたいと考えております。また、引き続き『青春白書』では、全国の高校生の活き活きとした日常や、様々に活躍している姿を紹介していきます。シリーズ『視点』では、学校が抱える課題や高校生の現状をタイムリーに発信し、会員相互の意識の共有化を図りたいと思います。今年度は、委員自らも各地区の様々な活動に積極的に参加し、取材活動や記事の作成も担当して、調査広報委員会全体で会報紙を作り上げてまいりたいと思います。今回の70号は8月の北海道大会で参加者全員にお配りしております。会員の皆様からのご意見ご感想をいただければ幸いです。

全高Ｐ連のホームページも、会員の皆様が各単位ＰＴＡの活動で活用できるように、内容を工夫し、使いやすいページ構成にリニューアルして、より多くの情報を提供してまいりたいと思います。健全育成委員会や進路対策委員会のアンケート結果や、講演会の動画なども将来的にはアップしていきたいと思っております。ホームページにつきましても会員の皆様からのご意見やご希望をお待ちしております。

調査広報委員会からのアンケートや原稿依頼などで皆様のご協力をお願いする場面も多々あるかと思いますが、今年度も何卒よろしくお願いいたします。

研修委員会

委員長　早川　悟史

今年度は、相川会長のもと「子供たちの為に」を忘れることなく一番の基本とし、研修委員会を運営していきたいと思っております。

そのために、本年度行う事業としては、以下の通りです。

①全国大会への支援と協力（平成23年度北海道大会成功に向けて問題点の最終調整、平成24年度和歌山大会支援のための研究協議、平成25年度山口大会の特別第３分科会のテーマ決定）

②全国大会運営に関しての基本的事項の確認（全国大会の在り方について、現状に照らして確認及び検証・検討、分科会テーマについて現状に照らし検討）

③調査研究のまとめ（平成23年度調査研究「高校生と食」の成果をまとめる）

また、地方での大会を開催するに当たり、遠隔地にある会場等の問題に対する対処方法を検討し、昨年度作成された全国大会開催マニュアルをより充実させたものにしていきたいと思います。

１年間どうぞよろしくお願いいたします。

祝　点

ータイ利用コンクール

子園2010』

の開催報告

高校生による携帯電話利用の自主的な取組みを一同に集め、優れた活動を表彰する全国イベント「第一回全国高校生ケータイ利用コンクールケータイ甲子園二〇一〇」が、平成23年５月22日に、大分市の大分全日空ホテルオアシスタワー五階孔雀の間にて開催された。当初、３月13日に開催予定だったが、直前に起こった東日本大震災のため延期開催したものである。

近年、情報化に伴い様々な問題が発生しているなか、特に子どものケータイ利用については、負の面が強調され過ぎ、問題視されることが多い。しかし、ケータイの使い方をはじめ、情報社会で生き抜く知恵や技術を身につけるための取組みをすでに展開している学校・地域も少なくない。そのため、ケータイ甲子園二〇一〇は、高校生によるケータイの自主的な活用法を一同に集め、優れた事例を表彰することによって、ケータイの「ポジティブな使い方」を広め、問題点についての理解を深め、賢い対応法を身につけることを目的として開催した全国初のイベントである。

大会では、「安心・安全」「マナー&ルール」「コミュニケーション」をキーワードに、学校の行事やグループ・クラスの活動、部活動、地域の活動などに役立つ取組みを対象とした「コミュニケーション部門」と、「ビジュアル」「サウンド」「ソフトウェア」「サイエンス」をキーワードにした作品やアイデアを対象とした「アート&サイエンス部門」の二部門を設けた。

昨年11月１日にエントリーを開始し、12月17日までの応募期間に、北海道から沖縄まで、全国17都道府県、30校、35チームからの応募があり、どれも、高校生のアイデアあふれる取組みであった。書類審査を行った結果、９校10チームの高校生が本選に出場することとなった（表１　本選出場校発表内容）。

本選では、高校生２～５人からなるチームで、その取組みについて熱心に発表が行われた。発表方法も演劇風であったり、紙芝居を使いキーボード演奏をしたりなど様々な形が工夫され、見る側の心に訴えかける素晴らしいものばかりで、審査員を悩ませた。その結果、コミュニケーション部門グランプリに「愛壱（あいいち）」弓削商船高等専門学校（愛媛）、アート&サイエンス部門グランプリに「北海道滝川高等学校美術部デザインチーム」北海道滝川高

表２　発表した高校生の感想

・全国各地の同世代の人たちのレベルの高さを痛感しました。それに追いつき追い越すために、もっともっと勉強をしないといけないと思いました。次の大会には出られるか分からないけど、もし出ることができたなら、その時は今回よりもっともっと工夫を凝らして発表したいと思います！
・ケータイ甲子園2010に出場して、本番前夜で他校との交流の場も用意していただき、意見交換などもできてとてもよかったです。さらに自分達はクラスみんなの取り組みを発表したため、ケータイ甲子園に出場することで、より一層クラスの絆も深まりました。とても素晴らしい大会だと思いました。ケータイ甲子園という素晴らしい大会があることをもっともっと色んな高校に教えていけたらいいと思いました！
・アート＆サイエンス部門において、アート性を追求し作品が評価されてすごく嬉しいです。大会では、映像を活用したプレゼンを行い、アイデアをいかに分かりやすく伝えられるか工夫をしました。他のチームも斬新なプレゼンばかりで刺激になったと同時にケータイ電話に対する様々な考えを聞くことができたので、すごく勉強になりました。

予選応募チーム

＜コミュニケーション部門＞	
No.001	北海道滝川高等学校「北海道滝川高校理数科地域づくり PROJECT チーム」北海道
No.002	栃木県立佐野松陽高等学校「松陽（しょうよう）」栃木県
No.003	栃木県立那須清峰高校「MMQ」栃木県
No.004	渋谷教育学園幕張高等学校「@liafailboy」千葉県
No.005	自由学園高等科「デジログ　コミュニケーション」東京都
No.006	東京都立上野高等学校「TEAM TOUEI」東京都
No.007	鹿島学園高等学校 通信制学習センター池袋校「グラスルート」東京都
No.008	本選出場！岐阜県立岐阜総合学園高等学校「マルチメディア部」岐阜県
No.009	大阪羽衣学園高等学校「羽衣学園学校　高１と高３コラボチーム」大阪府
No.010	兵庫県立兵庫工業高等学校「TKM」兵庫県
No.011	須磨学園高等学校「Suma Uniphoners」兵庫県
No.012	奈良県立奈良朱雀高等学校「奈良朱雀高等学校情報工学科」奈良県
No.013	鳥取県立岩美高等学校「生徒会」鳥取県
No.014	弓削商船高等専門学校「愛壱（あいいち）」愛媛県
No.015	高知中央高等学校「高知中央高校生徒会」高知県
No.016	特定非営利活動法人 IT サポートさが kodomo2.0（代表校：佐賀龍谷学園龍谷高等学校）佐賀
No.017	大分県立大分商業高等学校「大商 C.R.C」大分県
No.018	別府溝部学園高等学校「ＴＥＡＭ溝部」大分県

No.019	大分県立大分西高等学校「大分西高校「携帯電話内規作成委員会」」大分県
No.020	大分県立中津商業高等学校「中商（ちゅうしょう）マーケティング部」大分県
No.021	大分県立別府青山高等学校「つながーる・つなぼーい」大分県
No.022	沖縄工業高等専門学校「アナスタシア　ハイサイ！」沖縄県
＜アート＆サイエンス部門＞	
No.001	北海道滝川高等学校「北海道滝川高等学校美術部デザインチーム」北海道
No.002	鶴岡工業高等専門学校「TNCT」山形県
No.003	東京都立上野高等学校「上野203」東京都
No.004	筑波大学附属駒場中・高等学校「PAKEN」東京都
No.005	滋賀県立甲南高等学校「薬業クラブ出前組」滋賀県
No.006	神戸第一高等学校「神戸第一」兵庫県
No.007	関西中央高等学校「KCH 48～とある古都の高校生～」奈良県
No.008	奈良県立奈良朱雀高等学校「奈良朱雀高等学校情報工学科」奈良県
No.009	岡山県立岡山工業高等学校「OKAKO」岡山県
No.010	岡山県立岡山工業高等学校「JOHO」岡山県
No.011	大分県立三重総合高等学校「チーム片野（仮）」大分県
No.012	大分県立別府青山高等学校「カオスキャメル」大分県
No.013	日本文理大学附属高等学校「日本文理大学附属高等学校」大分県

シリーズ

第１回全国高校生ケー
『ケータイ甲
全国大会の

等学校（北海道）、そして特別賞に「奈良朱雀高等学校情報工学科」奈良県立奈良朱雀高等学校（奈良県）が選ばれた。

会場は200名を超える来場者でいっぱいで大変盛況であった。またその様子はTwitterやUstreamでも全国に配信された。Ustreamでは一時トップページに紹介され、総閲覧数は九千件を超えたことから、この大会に対する感心の高さがうかがえる（当日の様子　http://www.kt-koshien.jp/）。

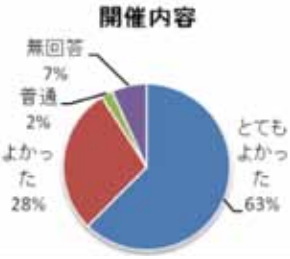
来場者に対し、ケータイ甲子園の内容について尋ねたアンケートでは「とてもよかった」「よかった」を合わせると、91％であった。また、次のような感想が寄せられた。

●学校ではケータイの利用を制限されているが、ケータイは様々な利用方法があることを解りやすく高校生の皆さんが訴えてくれるから、ケータイという概念も変わり、全国に広く伝わることができる部分が良かった。

●他の高校生がどんなことを考慮しているのか、一つのテーマ「ケータイ」と決まっていても、いろいろな考えと取組みがあることにビックリした。よかった。

●第一回ということもあって、どんなものなのかよく分からない中での参加でしたが、内容の濃い大会に参加できて本当に良かった。

●ケータイ利用上でのマナー等の注意がうながせることができる。良い機会になった。



また、発表した高校生からは表２のような感想があった。

今回のケータイ甲子園二〇一〇では、高校生の熱心な取組みと素晴らしいパフォーマンスにより訴える力が大変大きく、聴衆に大きな感動を与えた。参加した高校生自身が多くのことを学ぶ場となったのはもちろん、高校生が予想以上にしっかりとケータイの利用について考え、行動していることから、大人が学ぶものも非常に大きかったのではないかと思われる。今回の取組みを子どもから大人まで、多くの方々に知ってもらうことで、ケータイのポジティブな使い方が広がることを期待している。

第二回ケータイ甲子園の開催企画についても検討が進んでおり、決まり次第、公開する予定である。

（ケータイ甲子園実行委員会事務局㈱ハイパーネットワーク社会研究所　渡辺律子）

表１　本選出場校発表内容

◇コミュニケーション部門

弓削商船高等専門学校（愛媛県）　チーム名：「愛壱（あいいち）」
タイトル：「ＳＮＳとメーリングリストで作る島っ子ミュニケーション」
内容：学校が瀬戸内海の小さな島にあるため、入学時には初対面だったが、ＳＮＳを活用して、遠くに住んでいるクラスメイトの日常を知り、クラスの絆を深めた。

大分県立別府青山高等学校　チーム名：「つながーる・つなぼーい」
タイトル：「「心温かいケータイ活用」をめざして」
内容：生徒に携帯電話活用に関するアンケート調査を実施し、結果と対応策を纏めたパンフレットを作成。生徒会と連動し、生徒の意識改革のために校内にポスターの掲示を行った。

自由学園高等科（東京都）　チーム名：「デジログ コミュニケーション」
タイトル：「同世代コミュニケーションからの提言」
内容：携帯電話に関する犯罪に巻き込まれない方法、携帯電話に依存せずに人と付き合う方法等を小中学生にレクチャーし、アンケートを取り、結果から携帯電話への理解を考察した。

岐阜県立岐阜総合学園高等学校　チーム名：「マルチメディア部」
タイトル：「Mobile 広報プロジェクト」
内容：地域や保護者の方々と行う活動の広報用のチラシをＷＥＢ上に作成し（モバイルサイト）、ＱＲコードを用いて携帯での閲覧を容易にした。

奈良県立奈良朱雀高等学校　チーム名：「奈良朱雀高等学校情報工学科」
タイトル：「環境美化日常的ビフォーアフター ケータイ Photo コンテストの実施」
内容：校内美化のため、校内で汚れが目に付いた所を携帯電話で撮影し、清掃活動を行った後、改めて同じ場所を撮影する。その写真をＷＥＢサイトに公開、加えて写真のコンテスト形式にすることでさらに校内美化への意識の高まりを期待する。

栃木県立佐野松陽高等学校　チーム名：「松陽（しょうよう）」
タイトル：「ケータイで修学旅行を楽しくしよう」
内容：修学旅行に行く際、旅行先での情報共有を目的に、生徒自身が提示版サイトの作り方を調べ、携帯電話で写真を撮影し、投稿できるサイトを設置した。同時に携帯電話のマナーやメリット・デメリットを学ぶことができた。

◇アート＆サイエンス部門

滋賀県立甲南高等学校　チーム名：「薬業クラブ出前組」
タイトル：「薬草データベースを引き継ぎよりよいものに」
内容：先輩が用意していた薬草のＤＢを利用して、フィールドワークの際に撮影した写真を学校のパソコンに送り、ＤＢを充実させる。また、ネームプレートにＱＲコードを印刷しており、携帯での薬草情報確認も可能である。

北海道滝川高等学校　チーム名：「北海道滝川高等学校美術部デザインチーム」
タイトル：「シート de CORATION」
内容：携帯電話の待ちうけ画面（ディスプレイ）と携帯電話のフレーム部分をコーディネートした新感覚のアートな携帯デコレーションを提案した。

大分県立別府青山高等学校　チーム名：「カオスキャメル」
タイトル：「Let's making 温もり着信音！」
内容：生徒に携帯電話の着信音に関するアンケートを実施し、着信音を自分で作成してみたいという意見を元に「SoundEngineFree」というソフトウェアを利用して、自分たちの録音した声で着信音を作成した。

岡山県立岡山工業高等学校　チーム名：「ＯＫＡＫＯ」
タイトル：「ＰＩＣエミュレータ　ＰｉＱ」
内容：制御用ＩＣ（ＰＩＣ）のエミュレーターを開発。このエミュレーターを携帯電話用に移植し、携帯電話だけで制御実習ができるようにした。また、通常のＣ言語の学習にも利用できる。このシステムの開発により、実習経費の大幅な削減が可能になり、携帯電話での作業が可能になったことにより、場所を選ばずに授業の予習・復習が可能となった。

北海道地区　石狩大会

価値観の多様化時代　子供たちの主体性を育む意欲的なＰＴＡ活動を

第六十一回北海道高等学校ＰＴＡ連合会大会、石狩大会は、全国高Ｐ連大会北海道大会を二ヵ月後に控えている関係で、変則的な開催となりました。通常では二日日程ですが、本年は一日日程の午後開催で、講演会・分科会は実施せず、開会式・表彰式のみの開催となりました。また、全道大会終了後、全国大会実行委員等による結団式及び懇親会を合わせて開催しました。

全道大会では、東日本大震災の被災者等への黙祷、国歌斉唱のあと、榊原新会長があいさつに立ち「東日本大震災によって多くの大切な子どもたちや仲間が被災し、かけがえのない命が失われた。そうした中、八月に迎える全国大会北海道大会は〝いのち輝け！〟をテーマとしている。このテーマを決めた三年前には、このような事態が起きようとは想像していなかったが、何より今大切なものとして見つめられている命、このテーマの持つ重み、深さを感じている」と述べ、「私の力は大きくないが、全道の皆さんの声に耳を傾け、心を寄せあいともに進んで行きたい」との抱負を示した。続いて来賓の髙間専逸全国高Ｐ連会長が祝辞を述べ、「北海道は学校と家庭、地域社会を結ぶ懸け橋として地域の教育力向上のため重要な役割を担っているが、今後は地域の人々や団体、関係機関との連携をさらに深め、社会全体による教育の推進をさらに進めてほしい。」と要請した。この後、表彰式・次期開催支部（旭川・留萌支部）から挨拶があり全道大会を終了した。

引き続き北海道大会の結団式があり、昨年の東京大会で披露した北海道大会紹介ビデオを上映し、大会のテーマをあらためて確認するとともに、開催ムードを盛り上げた。さらに、本大会の顧問で、札幌市教委の北原敬文教育長から激励のことばがあり、「全国大会のテーマを多彩なプログラムを通じて深め、先の東日本大震災の被災地を含む全国の次代を担う青少年のたくましく健やかな成長を応援していくための力となるよう成功を心から祈る」とエールを送られた。最後に、約五百人の参加者を代表し、北海道大会実行委員会全体会・式典部会長の酒井薫さんが「全国から一万人の仲間を迎え、ともに学び、ともに喜び、感動を共有するとともに、スタッフ一同、参加して下さった方々の心に残る大会となるよう各部会が横のつながりをもって頑張ることを誓う」と、力強く決意表明を行い大会の成功を誓い合った。

関東地区　栃木大会

子どもの輝く未来は大人の行動から　～親として・ＰＴＡとしてできること～

第五十七回関東地区高Ｐ連大会栃木大会は、七月八日（金）・九日（土）の両日、栃木県を会場として開催され、関東六県及び山梨県から三〇〇〇余名のＰＴＡ会員代表者が一堂に会しました。

大会前日の七月七日（木）には、関東地区高Ｐ連総会を開催しました。各種の案件が承認され、千葉県高Ｐ連会長の白井平氏が新たな関東地区高Ｐ連会長に選任されました。

大会初日の八日には、宇都宮市のマロニエプラザを会場として、全体会が行われました。

開会式に先立ち、県立宇都宮北高校吹奏楽部による演奏と、県立小山北桜高校ｙｏｓａｋｏｉソーラン部の演舞があり、遠来の参加者に栃木の元気な高校生の姿を披露しました。

開会式では、鈴木定浩大会会長と工藤重信全高Ｐ連副会長があいさつを行い、会長は、「次の時代を担う子供たちのために何をなすべきかを考える機会にしたい。」と述べました。

次いで、関東地区高Ｐ連活動で功労のあった五十六氏と六団体に表彰状が渡されました。

その後、栃木県副知事佐藤順一氏をはじめ四氏から祝辞をいただきました。須藤稔県教育長からは、「子どもにとって一番身近にいる大人として活躍していただきたい」と激励を受けました。

最後に、生きる力と確かな学力をはぐくむ教育の推進、社会適応能力を持つ青少年の育成、特別支援教育の推進、食を大切にする教育の推進など六つの提言を盛り込んだ大会宣言を採択し、開会式を閉会しました。

記念講演では、作家で、東京家政大学特任教授の落合恵子氏を講師に迎え、「十代の感受性…子どもと大人、同時代を生きる」と題する多くの示唆に富むお話しをいただきました。

大会第二日は、各県連代表による事例発表や専門家を交えたパネルディスカッションなど活発な活動を六つの分科会に分かれて開催し、正午前大会を閉じました。

東京地区　東京大会

高校生と食育　～いのち、食の未来を考える～

第二十三回東京地区高等学校ＰＴＡ連合会大会は、七月九日、日本の政治の中心永田町にある星陵会館で開催されました。当日は、関東地方の梅雨明けと重なり、真夏の日差しの照りつける中、会場が満席になるほどの会員の参加がありました。

開会式では、全国高Ｐ連三浦啓亨副会長より祝辞を頂きました。引き続き、基調講演では、今年度のテーマ『食育』の第一人者である服部調理専門学校校長の服部幸應先生をお迎えし、お話を伺いました。

『食育』とは、人を良くすることを育むと書きます。食育の基本は、食物を選ぶ選食能力を養う・食事作法を身につける・食料問題や環境問題、という3つの柱から成り立っています。服部先生は栄養や調理だけでなく、幅広い角度から食育を提唱されています。

講演の中で、「東日本大震災の炊き出しの際、家族で肩寄せ合って食事をしたのは久しぶりで、家族のつながりがとても大切だということに気付いたという被災者の声をたくさん聞いた。家族で食卓を囲むことは、しつけだけでなく、子どもにとっては人間形成にも大きく影響を与えている。」と話され、服部先生のお話は、笑いあり、興味深いお話ありで、時間の過ぎるのも忘れてしまうほどでした。講演後には、活発に質疑応答が行われました。専門学校の校長として、「使命感を持った子どもを育てるには、家庭教育の影響が大きく、家族の存在が大きい。その中で、職業に対する意識が芽生える」といったキャリア教育にも繋がるお話もありました。

参加者からは、数えきれないほどたくさんの感想を頂き、『家庭の食卓』を考える良い機会となりました。

将来の進路として、調理師・栄養士を目指す高校生と保護者の参加も多数あり、将来の進路決定の参考となったことでしょう。

北信越地区　石川大会

いのち　輝け！　～人・夢・愛　ひたむきに頑張る君たちを応援したい～

平成二三年度北信越地区高Ｐ連研究大会石川大会は、七月八日(金)・九日(土)の二日間にわたって豊かな自然と薫り高い文化に包まれた金沢を舞台に開催、梅雨明け直前の暑い日射しのなか、北信越各県から一三〇〇名が参加しました。

開会に先立って、東日本大震災の犠牲者の冥福を祈って黙祷を捧げました。

開会式で吉岡洋会長は「今、子どもたちに必要なことは何か、私たちは何をしなければならないか討議を深めていただきたい」と挨拶、続いてＰＴＡ活動に功績のあった三〇名の表彰がありました。

歓迎アトラクションは、金沢辰巳丘高校管弦楽部の演奏で、最初の曲は震災の犠牲者追悼の気持ちを込めて『Ｇ線上のアリア』、続いて『アルルの女・第二組曲』。

分科会では、高校教育・進路指導・生徒指導・家庭教育とＰＴＡの関わりをテーマに合計二〇本の実践事例が報告され、熱心な質疑応答のあと、助言者から指導・助言がありました。

教育懇談会は、金沢能楽会による素囃子の演奏で始まり、加賀野菜をはじめとする地元の食材に舌鼓を打ちながら、大いに飲み、そして語り合いました。中ほどには奥能登に伝わる御陣乗太鼓の披露もあり、能登・加賀それぞれの芸能を楽しみました。

二日目は、高文連邦楽部の生徒三五名による箏曲の合奏、津幡高校なぎなた部によるリズムなぎなたの演舞がありました。また、会場となった音楽堂の廊下には美術・デザインを専攻する生徒の作品一一九点が展示され、「頑張る君たちを応援したい」のテーマにふさわしく生徒の活動が覗える大会でした。

記念講演では、『サザエさん一家から学んだ家族の幸せ』と題して、声優増岡弘氏の軽妙な語りに耳を傾けました。

大会宣言では「子どもたちの将来を守るために、多様な生命が共生できる持続可能な環境の実現に努める」ことなどを確認。閉会式では次年度開催県の富山県から挨拶があり、最後に吉岡会長の挨拶で大会は無事に閉幕しました。

東海地区　岐阜大会

学校教育及び家庭教育とＰＴＡの役割

平成二十三年度東海地区高等学校ＰＴＡ連合会「岐阜大会」が六月十六日（木）に長良川国際会議場で開催されました。本大会には、東海四県から一七六七名の会員の皆様をはじめ役員・理事らが参加されました。メイン会場では、一時通路に座られる方もあり、移動をお願いするなどご迷惑をお掛けしました。開会式では、東海高Ｐ連の早川悟史会長と全高Ｐ連の荻荘誠副会長の挨拶をいただきました。続いて、岐阜県副知事の渕上俊則様、岐阜県高等学校長協会の鹿野孝紀様からご祝辞を賜りました。ご多用の中、十一名のご来賓の方々をお迎えし厳粛かつ盛大に行われました。

開会式のあと「家族の絆～生きることのすばらしさ～」と題して戦場カメラマン・ジャーナリストとして活躍されている渡部陽一氏の講演がありました。あのゆっくりとした独特の話し方で多くの参加者の皆さんに感動を与えました。講演時間の最後の一五分程をいただいて、「トーク」の時間を設けました。トークには、本大会会長の早川悟史様と前会長の長坂光司様が皆さんの代表として渡部氏に質疑をする形式で行いました。

最後に、大会参加者へ「次は、世界で皆さんにお会いしましょう」とラブ・メッセージを頂戴いたしました。皆様からも、大変にご好評をいただきました。

続く研究協議会では、静岡県立科学技術高等学校の和田善彦育友会長から「学校教育とＰＴＡ～学校と地域社会をつなぐ育友会活動～」と題し、パワーポイントを活用し熱心な発表がありました。

続いて、岐阜県立加茂農林高等学校の西田豊司ＰＴＡ会長らから「家庭教育とＰＴＡ」というテーマのもと、「ＰＴＡ活動に学ぶ、親子関係～高大連携をとおしての新たなＰＴＡ活動～」と題して発表がありました。特に地元大学との高大連携セミナーにＰＴＡも関わりを持ち、保護者・教員が参加することで、子どもと親と学校が更に良い関係を築いているということが印象的でした。これらの発表と質疑の時間も含め、定刻を過ぎながらも好評のうちに研究協議会を終了しました。

近畿地区　滋賀大会

輝く未来に向かって進む高校生の応援団になろう

第三十七回近畿地区高等学校ＰＴＡ連合会大会滋賀大会は、七月一日（金）・二日（土）、〝母なるびわ湖〟のほとり滋賀県大津市において、「びわ湖ホール」を主会場に近畿二府四県三市より二七〇〇名を越えるＰＴＡ会員が一堂に会し盛大に開催しました。

一日目は、午後より「ピアザ淡海」において総会と各種会議が行われました。総会では各種案件が可決承認され、三輪一朝氏（兵庫県高Ｐ連会長）が新会長に選任されました。夕刻からの歓迎レセプションは、ＫＥＩＨＡＮ琵琶湖汽船「ミシガン」船上で行われ、来賓・県外のＰＴＡ役員等約九十名を迎えて交流を深めました。

二日目は、天候にも恵まれ、午前は「びわ湖ホール」において堅田高校の生徒による「淡海節」のオープニングで幕を開け、開会式へと進行しました。

開会式では、主催者挨拶、来賓祝辞、広報紙コンクール表彰、感謝状贈呈等が厳粛に執り行われました。

記念講演では、「尾木ママ」の愛称で知られる教育評論家 尾木直樹先生（米原市出身）が、「尾木ママの『元気の出る』子育て論」をテーマに、柔らかな口調の中にも的確で厳しい言葉を交えて、本当の学力、生きる力とは何か、洞察力を鍛えること、コミュニケーションスキルが大切と訴えられました。展開される尾木ママトークに会場からは笑い声が盛んに上がっていました。

午後からは、各分科会が行われ、第一～三分科会においてはそれぞれユニークな実践発表が行われ、活発な意見交換が行われました。特別分科会ではアトラクションとパネルディスカッションが行われ、アトラクションでは地元のミュージシャン川本 勇氏と甲西高校吹奏楽部のコラボレーションが、またパネルディスカッションは、「地元活性と人材育成」をテーマに、四名のパネリストによる有意義なディスカッションが展開されました。

中四国地区　広島大会

親と子の信頼でつなぐ命の絆
～心の声がきこえますか～

第五十三回中国・四国地区高等学校ＰＴＡ連合会大会広島大会は七月一五日(金)、広島市に中国四国各県より一八〇〇名を越える参加を得て盛大に開催された。

東日本大震災の犠牲者の方々に対して黙とうをささげた後、開会式では、中国四国高Ｐ連中河原圭司会長、全国高Ｐ連相川順子会長、下﨑邦明広島県教育長の挨拶、続いて湯﨑英彦広島県知事、松井一實広島市長より祝辞をいただいた。

研究協議では「子どもの進路意識高揚とＰＴＡ活動」～ＰＴＡ活動の中で何ができるか～と題して、香川県立善通寺第一高等学校赤股誠司ＰＴＡ会長が、学校と連携して取り組むＰＴＡ研修旅行」、進路先マップを掲載した「ＰＴＡだより」の作成、職業インタビューや保護者を講師とした「〝なるには〟講演会」について発表。

次に「生活指導から生活向上へ」～生徒会・学校・ＰＴＡで築く学校ブランド～と題して、鳥取県倉吉総合産業高等学校中井浩前ＰＴＡ会長が、あいさつや身だしなみの礼法やその意味を生徒が学び実践し、地域で高い評価を得てきたこと、年二〇〇〇回近くあった遅刻者数を生徒・教員・保護者の努力により、三年間で一七三回にまで減らした取組みについて発表。あいさつ運動で活用された〝爽やかデザインのぼり〟も紹介された。

最後に「西農生と食」～食料・いのち・未来を考える～と題して、広島県立西条農業高等学校雲田光直前ＰＴＡ会長が、「いのち」をテーマで実施した「あぐりフォーラム」や西農一〇品オリンピック等、学校と協力して取り組んでいる食と命に関わる活動を報告した。

昼食後、広島県立吉田高等学校神楽部、広島県立海田高等学校空手部、広島県立湯来南高等学校和太鼓部、広島県の三校による「神楽」「空手」「和太鼓」の演奏・演舞が披露された。郷土に根づいた芸能を演じる爽やかで溌剌とした広島県の子どもたちの姿に、多くの参加者が心打たれた。

最後に、広島在住の臨床心理士・スクールカウンセラー樋口啓子氏に、「親と子の信頼でつなぐ命の絆」～心の声が聞こえますか～の演題でご講演をいただいた。子どもや保護者の方との相談活動やいのちの電話の経験をもとに、五つの積極的傾聴の技法が実践を交えて紹介され、心を動かして子どもの声を聴くことの大切さが心に染みた講演だった。

九州地区　沖縄大会

親ごころ、子の思い、伝え合い、夢を語ろう

第五五回九州地区高等学校ＰＴＡ連合会大会肝美(ちむぐ)らさ沖縄大会は、六月一六日・一七日の両日、晴れ渡った青い空の下、目の前にはコバルトブルーの海が広がった、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターをメイン会場として盛況裡に開催されました。

第一日は、理事会・総会が開かれ、平成二十二年度の事業報告・決算報告、平成二十三年度の事業計画並びに予算審議、そして役員改選が行われました。会終了後行われた懇親会には、高間全高Ｐ連会長、高橋前会長、相川、萩荘副会長にご臨席賜りました。琉舞の披露などがあり、和やかで楽しい懇親会でした。

翌十七日は、いよいよ本大会です。九州各県から二千四百二十余名もの会員が結集し、分科会討議が始まりました。第一分科会は「青少年の健全育成とＰＴＡ活動」、第二分科会は「進路指導とＰＴＡ活動」のテーマのもとそれぞれ三つの事例発表が行われ、活発な質疑応答・意見交換がありました。第三分科会は「高校生の食とＰＴＡ活動」のテーマでパネルディスカッションが行われ、フロアからも活発な意見・提起がり、すごく盛りあがった分科会になりました。

お昼のアトラクションは世界の西原高校マーチングバンドの優美でメリハリのある演舞と、首里高、コザ高の空手の迫真の演武で、大変好評でした。

記念講演は「沖縄県の伝統芸能組踊へのいざない」という演題で琉球大学の大城學教授による講演がありました。組踊がユネスコ文化遺産登録され、沖縄文化の精髄であるとの話は沖縄を知る良い機会になりました。

全体会は、高間会長が、あいさつの中で、沖縄に対する厚い思い入れを語っておられました。表彰、広報紙コンクール講評があり、大会宣言文の採択、特に東日本大震災の被災者へ支援を継続して行うことなどが決議されました。最後に次期開催の福岡県に九高Ｐ連旗を引継ぎ閉会しました。

平成23年度　社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会役員・委員名簿

役職名	氏　名	地区名	県名	備　考
会　長	相川　順子	東　北	青　森	
副会長	三浦　啓亨	九　州	大　分	調査広報委員会担当 賠償責任補償制度運営委員長
副会長	工藤　重信	東　北	岩　手	進路対策委員会担当 一般社団法人移行準備委員長 （仮）　会費等検討委員会
専務理事	松本　衆司	北海道	北海道	健全育成委員会担当
常務理事	多々良健司	中四国	山　口	研修委員会担当
理　事	榊原　綾子	北海道	北海道	北海道地区会長、研修委員
理　事	正木　毅	東　北	宮　城	東北地区会長、進路対策委員長
理　事	渡辺　健二	東　北	福　島	研修委員
理　事	白井　平	関　東	千　葉	関東地区会長
理　事	熊谷　哲郎	〃	埼　玉	
理　事	南村　和良	東　京	東　京	東京地区会長、健全育成委員
理　事	青木真佐枝	〃	〃	調査広報委員長
理　事	吉岡　洋	北信越	石　川	北信越地区会長
理　事	毛利　一朗	〃	富　山	健全育成委員
理　事	早川　悟史	東　海	岐　阜	東海地区会長、研修委員長
理　事	稲垣　元美	〃	三　重	健全育成委員
理　事	三輪　一朝	近　畿	兵　庫	近畿地区会長
理　事	苅田　雄二	〃	京都府	
理　事	中河原圭司	中四国	広　島	中国・四国地区会長
理　事	椎野　正敬	〃	徳　島	調査広報委員
理　事	木下　伸二	九　州	福　岡	九州地区会長
理　事	岡薗　正浩	〃	宮　崎	健全育成委員長
理　事	北沢　好一			事務局長、全国高等学校長協会
代表監事	伊藤　均	東　北	宮　城	退任理事
監　事	鈴木　敏彦	東　海	静　岡	
〃	外城戸昭一	九　州	鹿児島	
顧　問	髙間　專逸	北海道	北海道	前会長
顧　問	髙橋　正夫	九　州	大　分	元会長
相談役	藤井　久丈	北信越	富　山	元会長
相談役	小栗　洋			全国高等学校長協会事務局長

総　務　委　員　会

職　名	所属県名	氏　名	職　名	所属県名	氏　名	職　名	所属県名	氏　名
委員長	北海道	松本　衆司	副会長	岩　手	工藤　重信	委　員	宮　城	正木　毅
会　長	青　森	相川　順子	委　員	山　口	多々良健司	委　員	東　京	青木真佐枝
副会長	大　分	三浦　啓亨	委　員	宮　崎	岡薗　正浩	委　員	岐　阜	早川　悟史

進　路　対　策　委　員　会

職　名	所属県名	氏　名	職　名	所属県名	氏　名	職　名	所属県名	氏　名
委員長	宮　城	正木　毅	委　員	青　森	住吉　治彦	委　員	愛　知	榎本　実
担当役員	岩　手	工藤　重信	委　員	茨　城	田口　裕之	委　員	大阪府	藤田　城光
副委員長	鳥　取	池内　勝彦	委　員	東　京	岩淵　賢次	委　員	佐　賀	小出　邦彦
委　員	北海道	山本　富造	委　員	新　潟	齋藤　隆			

研　修　委　員　会

職　名	所属県名	氏　名	職　名	所属県名	氏　名	職　名	所属県名	氏　名
委員長	岐　阜	早川　悟史	委　員	北海道	榊原　綾子	委　員	東　京	丹羽　則子
担当役員	山　口	多々良健司	委　員	福　島	渡辺　健二	委　員	福　井	掛谷　龍一
副委員長	和歌山	西原　英男	委　員	神奈川	柳川　秀史	委　員	熊　本	田上　忍

（仮）会費等検討委員会

職　名	所属県名	氏　名	職　名	所属県名	氏　名	職　名	所属県名	氏　名
委員長	岩　手	工藤　重信	委　員	宮　城	正木　毅	委　員	兵　庫	三輪　一朝
委　員	大　分	三浦　啓亨	委　員	千　葉	白井　平	委　員	広　島	中河原圭司
委　員	北海道	松本　衆司	委　員	東　京	南村　和良	委　員	福　岡	木下　伸二
委　員	山　口	多々良健司	委　員	石　川	吉岡　洋			
委　員	北海道	榊原　綾子	委　員	岐　阜	早川　悟史			

健　全　育　成　委　員　会

職　名	所属県名	氏　名	職　名	所属県名	氏　名	職　名	所属県名	氏　名
委員長	宮　崎	岡薗　正浩	委　員	群　馬	腰高　博	委　員	奈　良	浦久保　誠
担当役員	北海道	松本　衆司	委　員	富　山	毛利　一朗	委　員	愛　媛	泉谷　睦美
副委員長	東　京	南村　和良	委　員	三　重	稲垣　元美	委　員	長　崎	山口　文雄
委　員	岩　手	松尾　正弘						

調　査　広　報　委　員　会

職　名	所属県名	氏　名	職　名	所属県名	氏　名	職　名	所属県名	氏　名
委員長	東　京	青木真佐枝	委　員	北海道	中島　圭	委　員	長　野	今堀　雷三
担当役員	大　分	三浦　啓亨	委　員	秋　田	佐々木克巳	委　員	静　岡	鈴木　敏彦
副委員長	徳　島	椎野　正敬	委　員	山　梨	楳窪　一浩	委　員	滋　賀	小西　康之

賠償責任補償制度運営委員会

職　名	所属県名	氏　名	職　名	所属県名	氏　名	職　名	所属県名	氏　名
委員長	大　分	三浦　啓亨	委　員	東　京	南村　和良	委　員	岡　山	中村　有作
委　員	北海道	野瀬　政裕	委　員	新　潟	丸田　堯	委　員	熊　本	田中　和幸
委　員	青　森	本谷　隆司	委　員	愛　知	榎本　実	委　員	本　部	北沢　好一
委　員	埼　玉	須田　保	委　員	奈　良	浦久保　誠			

一般社団法人移行準備委員会

委員長	岩　手	工藤　重信	専門委員	秋　田	工藤　元博	委　員	大　分	三浦　啓亨
専門委員	新　潟	荻荘　誠	委　員	青　森	相川　順子	委　員	本　部	北沢　好一

東日本大震災義援金

募金活動のお礼と報告

貴ＰＴＡにおかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より、当連合会の事業推進に対しましてご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げております。

さて、東日本大震災の義援金につきましては、全国の高等学校ＰＴＡ会員の皆さまより多くの善意が寄せられました。ここに厚く御礼を申し上げます。

皆様よりお寄せいただきました義援金は５月20日に締め切りましたが、その後各方面から継続して欲しいとの要望が寄せられ延長致しました。

しかし、大震災から百日を過ぎましたので、できるだけ早く被災された生徒のために活用していただきたいという思いから、６月25日に開催された㈳全国高等学校ＰＴＡ連合会の平成23年度第一回通常総会の冒頭で、このたび被災された宮城県、岩手県、福島県、茨城県、青森県の高等学校ＰＴＡ連合会会長に、義援金をお寄せくださった全国の皆様を代表して、髙間専逸全国高等学校ＰＴＡ連合会長から目録を添えて直接お渡しいたしました。

お礼の言葉を述べる
宮城県高Ｐ連　正木会長

ここに御礼方々ご報告申し上げます。

現在、義援金受付口座に寄せられた合計総額は全高Ｐ連ホームページに掲載されておりますのでご覧ください。また、今後寄せられた義援金は第二次配分として時機を見てお渡しいたします。

（文責・本部事務局）